

○計画期間：平成30年4月～令和5年3月（5年0月）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和3年度終了時点（令和4年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は平成30年3月23日に3期目となる中心市街地活性化基本計画の認定を受け、令和5年3月までの5年間にわたり『県都にふさわしい中心市街地の魅力が伸展するまちづくり』～多様な「もの・ひと・しかけ」で人々を惹きつけるまち～をテーマとして掲げ、「①幅広い世代の人で賑わう魅力あるまちなか商業拠点の形成」「②多くの人々が行き交い、多様なサービスが受けられる空間の創出」「③新たな出会いや都市文化を育む個性の創出」の3つを基本的な方針に設定し、これまでソフト・ハード両面から各事業に取り組んできた。

令和3年度は4月末から大分駅府内中央口に抗原検査センターを設置し、10月からはイベント開催時に本市独自の「大分市ワクチン・検査チェック」を導入するとともに、新型コロナウイルス感染症対策に係る経費の補助や、実際に行われた対策を掲載した事例集の作成公表を行うなど、様々な工夫を施しながら、賑わいと安全・安心の両立を図ってきた。感染の比較的落ち着いた10月～12月頃には、お部屋うポ 祝祭の広場等を活用した多くのイベントが開催され、賑わいが回復する兆しが見受けられたものの、年明けからの感染症の再拡大やまん延防止等重点措置の適用等により、再び人流が抑制されたことから、「中央町・府内町間を往来する歩行者通行量（土日計）」「中心市街地循環バス「大分きゃんバス」年間利用者数」「主要文化交流施設年間利用者数」の各指標については、基準値を下回る結果となった。しかしながら、令和2年度に比べると数値は改善しており、今後は更なる人流や回遊性の回復を促すイベントを、可能な限り従来の形式で実施することで、中心市街地に賑わいを取り戻すことができると考える。

また、「空き店舗率」については、事業者への家賃支援や上下水道料金の免除、利子補給といった事業継続支援に加え、販路開拓や業務効率化の取組に対しても手厚い支援を実施したことにより、閉店が抑制されるとともに、出店後のフォローアップを必須とする出店補助により新規出店数が年間16件と、令和2年度に比べて2倍以上に増えた結果、昨年度より2.8ポイント数値が改善した。各種事業の順調な進捗が、空き店舗率の悪化に歯止めをかけ、商業機能の回復に一定の効果が発現していると考えられる。

ハード面については、概ね順調に進捗しており、「荷揚町小学校跡地複合公共施設」が令和6年、「末広町1丁目地区第一種市街地再開発事業」が令和8年の事業完了を目指して準備を進めており、新たなにぎわいの創出や回遊性の促進が期待されている。

こうした状況を踏まえ、今後はこれまでの知見を生かした感染症対策を十分に講じた上で、可能な限り従来の形式でのイベント・行事等を実施することで交流機会の拡大や、回遊性の向上を図るとともに、着実にまちなか商業拠点の形成維持を図り、行政、商店街、大型店、まちづくり関係者等が連携して県都にふさわしい魅力が進展する中心市街地を目指していく必要がある。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

中心市街地の地価は上昇傾向であるのに対し、居住人口は令和3年度初めて減少に転じた。

(1) 居住人口

(基準日：毎年度12月末日)

(中心市街地 区域)	平成29年度 (計画前年度)	平成30年度 (1年目)	令和元年度 (2年目)	令和2年度 (3年目)	令和3年度 (4年目)	令和4年度 (5年目)
人口	20,281	20,752	21,103	21,179	21,048	
人口増減数	153	471	351	76	△131	
自然増減数	—	—	—	—	—	—
社会増減数	—	—	—	—	—	—
転入者数	—	—	—	—	—	—

※人口増減数、自然増減数、社会増減数、転入者数はシステム上集計不可

(2) 中心市街地小売業年間商品販売額

(単位：億円)

	平成29年度 (計画前年度)	平成30年度 (1年目)	令和元年度 (2年目)	令和2年度 (3年目)	令和3年度 (4年目)	令和4年度 (5年目)
販売額	863	853	843	712		

(3) 中心市街地の地価(公示地価)の推移

(単位：千円/m²)

区分	標準地番号	住所	備考	平成 29年 度(計 画前 年度)	平成 30年 度(1年 目)	令和元 年度(2 年目)	令和2 年度(3 年目)	令和3 年度(4 年目)	令和4 年度(5 年目)
①	大分5-1	中央町1-3-23	商業地	491	521	550	580	589	
②	大分5-2	都町2-1-6	商業地	320	330	343	356	359	
③	大分5-4	府内町1-4-11	商業地	198	199	203	210	210	
④	大分5-6	金池町3-1-68	商業地	153	158	164	171	175	
⑤	大分5-8	大道町3-2-26 (H30より3- 3-4に地点変更)	商業地	116	123	126	130	131	
⑥	大分5-19	末広町2-1-13	商業地	145	149	154	160	161	
⑦	大分5-20	大手町1-1-8	商業地	146	147	150	153	155	
⑧	大分5-27	中央町3-1-2	商業地	248	256	265	276	280	
⑨	大分10	金池南2-4-21	住宅	—	—	—	—	—	
⑩	大分10	金池南1-14- 32	住宅	147	150	153	155	155	

(資料：国土交通省地価公示)

2. 令和3年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

大分市では、平成30年3月に第3期となる計画が内閣総理大臣の認定を受け、①幅広い世代の人で賑わう魅力あるまちなか商業拠点の形成、②多くの人々が行き交い、多様なサービスが受けられる空間の創出、③新たな出会いや都市文化を育む個性の創出の3つを基本的方針に設定し、官・民一体となって各種事業を協働で実施してきたところである。

しかしながら、①空き店舗率、②中央町・府内町間を往来する歩行者通行量（土日計）、③中心市街地循環バス「大分キャンバス」年間利用者数、④主要文化交流施設年間利用者数の4つの指標は、いずれも目標値の達成には至っていない。

これは、令和3年度においても、新型コロナウイルスの感染拡大により、外出・移動の自粛要請や飲食店への時短要請、イベント等の延期・中止など、昨年度に続いて人流抑制等の影響を大きく受けたことが要因である。

一方、大分市においては、感染症対策として、大分駅府内中央口への抗原検査センターの設置やイベント開催時の市独自のワクチン・検査チェックシステムの導入、感染症対策にかかる各種経費補助、感染症対策事例集の発刊など、創意工夫を施しながら、賑わいと安全・安心の両立が図られるよう努めている。

今夏以降については、行動制限の緩和が一層進むことが予想される中で人流増加や回遊性向上を促す各種イベント・行事等を積極的に開催し、厳しい状況が続いてきた中心市街地の賑わいづくりに大いに期待したい。

また、目標指標の中で唯一、昨年度より数値が改善し、目標値には達しなかったものの基準値を上回った空き店舗率については、家賃補助をはじめとした事業継続支援に加え、販路開拓や業務効率化などを支援する小規模事業者競争力強化支援事業が個店の魅力向上につながり、閉店抑止策として一定の効果を見せていることから、引き続き幅広く事業の周知を図ると共に予算の拡充等の強化に努められたい。

他方で、身体的距離の確保をはじめ、来街者の価値観も変化する中で、通行量や利用者数など、量的な指標によって評価する方法には限界があり、次期計画を策定する際には評価指標の抜本的な見直しが必要になることも考慮に入れておかなければならない。

当協議会は、まちづくりの推進機関として、ウィズコロナ、ポストコロナ時代を見据え、コロナ禍における消費者行動などを分析しながら、新しい生活様式に対応した中心市街地のあるべき姿について調査研究するほか、大分市や商店街、民間事業者などと協働して中心市街地活性化の目標実現に向けて最大限努力していく。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
伝統と革新の調和によるまちなか商業の活性化	空き店舗率	11.1% (H28)	4.6% (R4)	9.0% (R3)	B	1	①
魅力的な都市空間の創出による回遊性の向上	中央町・府内町間を往来する歩行者通行量(土日計)	32,832 人 (H28)	37,000 人 (R4)	24,902 人 (R3)	C	1	①
	中心市街地循環バス「大分きゃんバス」年間利用者数	60,931 人 (H28)	65,000 人 (R4)	47,141 人 (R3)	C	1	①
多様な都市ストックを活かした交流機会の拡大	主要文化交流施設年間利用者数	3,902,363 人 (H28)	4,180,000 人 (R4)	2,279,119 人 (R3)	C	1	①

< 基準値からの改善状況 >

A : 目標達成、B : 基準値より改善、C : 基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類 >

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

2. 目標達成見通しの理由

「空き店舗率」においては、令和2年度の11.8%より2.8ポイントの改善が見られ、目標値には及ばないものの基準値を上回った。これは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を鑑み、閉店を抑制する事業を予算や補助率等を拡充して実施したことにより閉店が抑制されるとともに、出店補助により新規出店数が年間16件と令和2年度に比べて2倍以上に増えたことが要因として挙げられ、事業の進捗状況が順調であることから、目標達成は可能であると見込まれる。

「中央町・府内町間を往来する歩行者通行量(土日計)」「中心市街地循環バス「大分きゃんバス」年間利用者数」及び「主要文化交流施設年間利用者数」は、基準値及び目標値には及ばなかったものの、令和2年度の数値より改善した。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴って、不要不急の外出を控える動向は未だ続いているが、今後はこれまでの知見を生かした感染症対策を講じた上で、可能な限り従来の形式でのイベント・行

事等を実施することで、交流機会の拡大や、回遊性の向上を図ることにより目標達成は可能であると見込まれる。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

「空き店舗率」

目標達成の見通しについては、令和2年度のフォローアップにおいて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、取組の進捗状況は予定通りでないが、ワクチン接種が進み、感染症が終息するとともに、「東京2020オリンピック・パラリンピック」の開催など経済に与える好影響が予想されると考えたことから、目標達成可能である(1)と評価した。

令和3年度は、新規出店数が増加したこと等が要因となり、令和2年度の数値より改善し、基準値を上回ったことから、関連する事業等の進捗状況も順調であり、目標達成が可能である(1)と評価した。

「中央町・府内町間を往来する歩行者通行量(土日計)」

目標達成の見通しについては、令和2年度のフォローアップにおいて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、取組の進捗状況が予定通りでないが、ワクチン接種が進み、感染症が終息すれば、以前のような人出に回復すると考えたことから、目標達成可能である(1)と評価した。

令和3年度は、令和2年度の数値より改善したことに加え、今後はこれまでの知見を生かした感染症対策を講じた上で、可能な限り従来の形式でのイベント・行事等を実施することから関連する事業などの進捗状況も順調であり、目標達成が可能である(1)と評価した。

「中心市街地循環バス「大分きゃんバス」年間利用者数」

目標達成の見通しについては、令和2年度のフォローアップにおいて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、取組の進捗状況が予定通りではないが、ワクチン接種が進み、感染症が終息すれば、外出機会も以前と同水準まで戻ると考えたことから目標達成可能である(1)と評価した。

令和3年度は、令和2年度の数値より改善し、バスの運行事業は順調に行われ、感染者数が落ち着いた4月頃や7月頃、10月～12月頃には、利用者数が増加しており、人々の外出機会も増大したと考えられるとともに、令和4年度においてもバスの運行ルートの拡大などが行われることから、関連する事業等の進捗状況が順調であり、目標達成可能である(1)と評価した。

「主要文化交流施設年間利用者数」

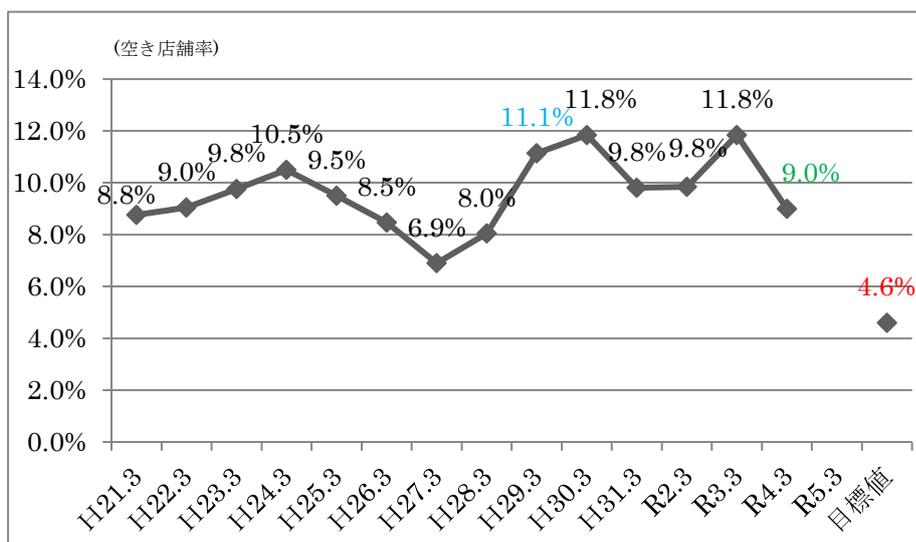
目標達成の見通しについては、令和2年度のフォローアップにおいて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、取組の進捗状況は予定通りではないが、ワクチン接種が進み、感染症が終息すれば、外出機会も依然と同水準まで戻ると考えたことから、目標達成可能である(1)と評価した。

令和3年度は、令和2年度の数值より改善し、感染者数が落ち着いた4月頃や7月頃、10月～12月頃には、利用者数が増加して人々の外出機会も増大したと考えられるとともに、令和4年度においても引き続き各事業が実施されることから、関連する事業等の進捗状況が順調であり、目標達成可能である(①)と評価した。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「空き店舗率」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 64～P. 66 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H28	11.1% (基準年値)
H29	11.8%
H30	9.8%
R1	9.8%
R2	11.8%
R3	9.0%
R4	4.6% (目標値)

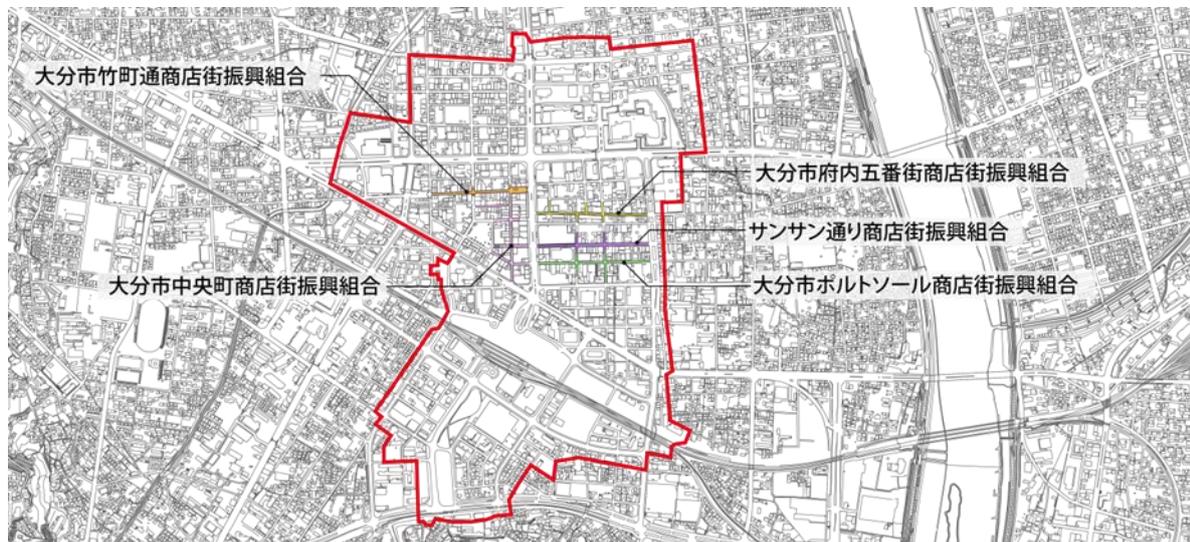
※調査方法： 職員の目視による

※調査月： 毎年3月

※調査主体： 大分市

※調査対象： 中心市街地における5商店街組合区域内の建物1階部分

※調査地点



(単位：%)

	平成29年度 (計画前年度)	平成30年度 (1年目)	令和元年度 (2年目)	令和2年度 (3年目)	令和3年度 (4年目)	令和4年度 (5年目)
竹町通商店街	14.3	13.0	16.0	17.3	10.5	—
中央町商店街	13.0	7.5	8.3	9.3	8.4	—
府内五番街商店街	14.3	11.4	10.0	11.4	8.6	—

ポルトソール 商店街	9.3	9.6	9.6	13.7	10.8	—
サンサン通り 商店街	6.0	8.0	4.0	6.1	6.0	—

〈分析内容〉

令和3年度の空き店舗率は、令和2年度と比べ2.8ポイント改善した。

商店街ごとの比率で最も改善が見られたのは竹町通商店街であり、令和3年度の10.5%は、令和2年度比で6.8ポイントもの改善となった。また、中央町商店街では8.4%となり、前年度比で0.9ポイントの改善、府内5番街商店街では11.4%となり、前年度比で2.8ポイントの改善、ポルトソール商店街では10.8%となり、前年度比で2.9ポイントの改善、サンサン通り商店街では6.0%となり、前年度比で0.1ポイントの改善と、いずれの商店街も空き店舗率は改善した。

空き店舗率の改善に向けた各事業については、概ね予定通り進捗しており、新型コロナウイルスの感染状況を注視しつつも新規出店数が増加したことや、一部事業において新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を鑑みて予算や補助率等を拡充して実施したことにより、閉店抑制につながったと分析される。

なお、本市にて実施している「まちなか出店支援事業」において令和3年度に出店した16件の業種内訳については、飲食業8件、サービス業4件、小売業3件、教育・学習支援業（スポーツ教室）1件であった。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 小規模事業者競争力強化支援事業（大分市）

事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	小規模事業者の地道な販路開拓や業務効率化の取組、販路開拓と業務効率化を一体的に行う取組に要する経費を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 まちなか出店事業の支援店舗における閉店抑制数 年平均3店舗 ・最新値（積算根拠による推計値） まちなか出店事業の支援店舗における令和3年度の閉店抑制数 3店舗 <p>令和3年度は令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症による経済的な影響を鑑み、予算や補助率等を拡充して実施した。</p> <p>その結果、412件（うち計画エリア内は98件）の交付決定をし、個店が販促PRや店舗改装などの販路開拓につながる取組を行ったことにより、個店の魅力向上と競争力強化が図られ、閉店抑止につながった。</p>
事業の今後について	引き続き、事業に取り組み、年間平均3件の空き店舗の抑制を見込む。

②. まちなか出店支援事業（大分市）

事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地で事業意欲のある商業者や起業者に対して、商店街等と連携を図りながら空き店舗への出店に関わる経費の一部を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（平成 30 年度～）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 当事業の制度拡充の効果における空き店舗の改善数 年平均 3 件 ・最新値（積算根拠による推計値）令和 2 年度の改善数 4 件 <p>平成 30 年度に審査会を隔月開催から毎月開催にするなど事業の見直しを随時行っている。</p> <p>令和 3 年度の新規出店数は 16 件と令和 2 年度の 2 倍以上に増え、中心部商店街の空き店舗率の改善に大きな成果をあげた。</p>
事業の今後について	開店後のフォローアップ実施など、制度の拡充を行い、引き続き空き店舗への出店を促進していく。

③. まちなかりノベーション居住等物件魅力アップ事業（株大分まちなか倶楽部）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	空き店舗増加の状況打開に向けたまちなかの店舗等の物件の魅力アップと、まちなか居住人口の増加に向け、老朽化した物件のリノベーションを推進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 当事業における空き店舗の改善 年平均 1 件 ・最新値（積算根拠による推計値） 令和 3 年度の改善 0 件 <p>平成 30 年度に、株大分まちなか倶楽部、地元商業者、不動産業者等で組織する「中心市街地エリアマネジメント研究会」を設立し、定例学習会や先進地視察などを実施した。</p> <p>令和 3 年度の「中心市街地エリアマネジメント研究会」は、対面での実施と、新型コロナウイルスの感染拡大が続いていた時期には学習資料を共有するという 2 つの手法を用い、定例学習会を実施した。</p> <p>中心市街地エリアマネジメント研究会による調査・研究は進んでいるものの、既存ストックのリノベーションは実現できていないため、当事業における空き店舗の改善には至らなかった。</p>
事業の今後について	外部より専門家を招聘し、エリアマネジメント研究会での検討内容を深掘しながら引き続き事業を継続する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

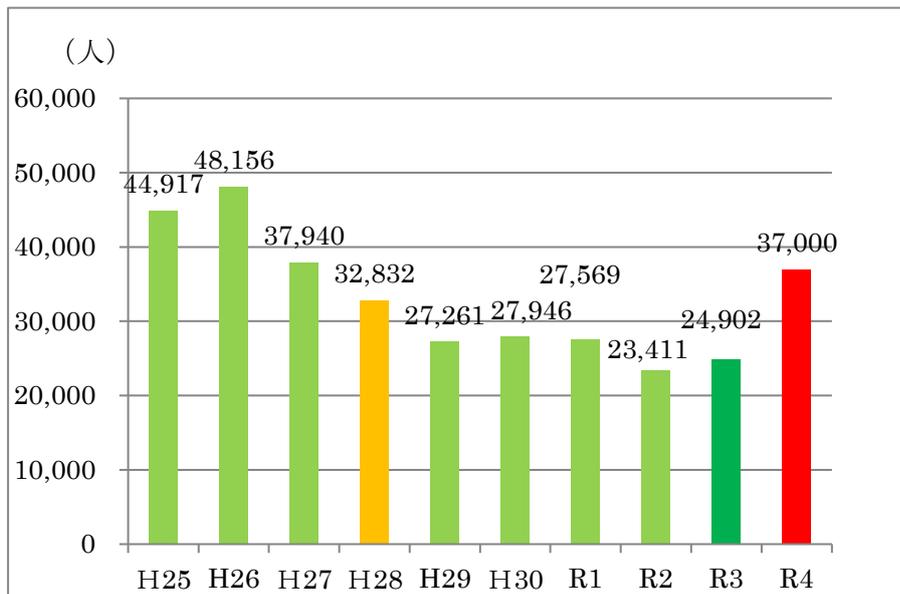
閉店を抑制する事業を予算や補助率等を拡充して実施したことにより閉店が抑制されるとともに、出店補助により新規出店数が年間 16 件と令和 2 年度に比べて 2 倍以上に増えたことから、令和 3 年度の空き店舗率は、令和 2 年度と比べ 2.8 ポイント改善した。こうした状況から、事業の進捗状況が順調であり、目標達成は可能であると見込まれる。

今後は新型コロナウイルスの感染状況を注視しつつも、感染症の終息後を見据えながら、引き続き関係団体と連携して事業者への補助制度の周知や、フォローアップに力を入れることで、新規出店数と閉店抑制数の両面から空き店舗率の改善を図る。

(2)「中央町・府内町間を往来する歩行者通行量(土日計)」

※目標設定の考え方認定基本計画 P.67~P.71 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H28	32,832 人 (基準年値)
H29	27,261 人
H30	27,946 人
R1	27,569 人
R2	23,411 人
R3	24,902 人
R4	37,000 人 (目標値)

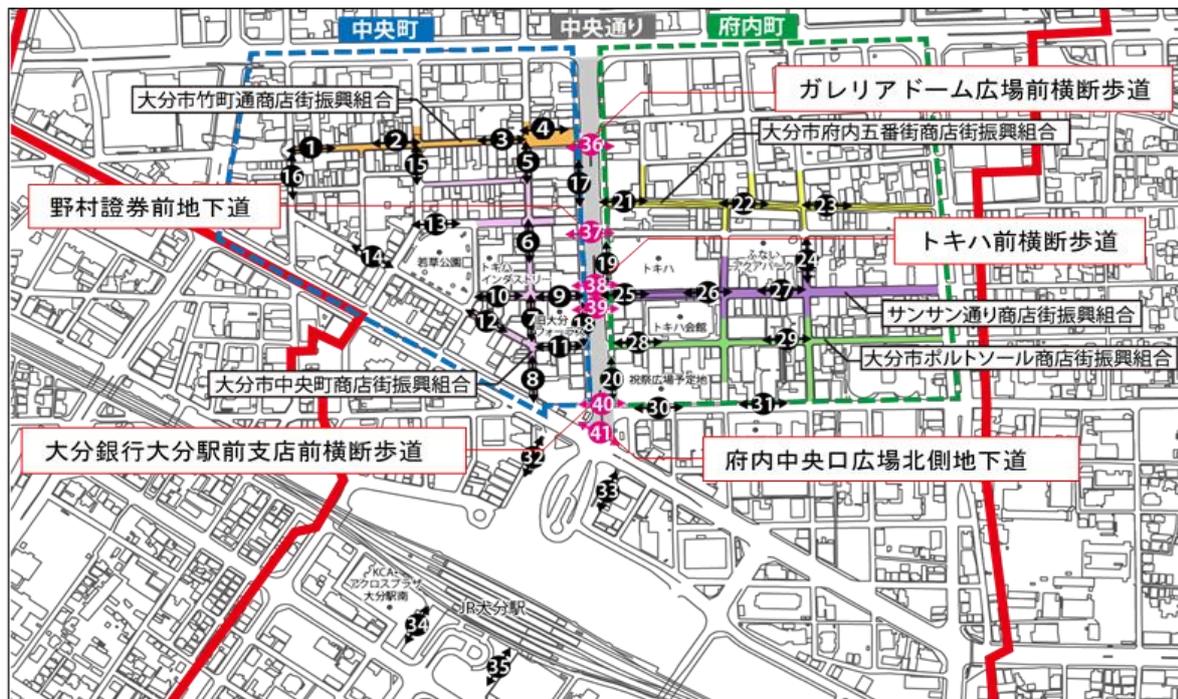
※調査方法：歩行者通行量調査

※調査月：毎年11月

※調査主体：大分市

※調査対象：大分市中心部5箇所にて定点調査を実施

※調査地点



	平成29年度 (計画前年度)	平成30年度 (1年目)	令和元年度 (2年目)	令和2年度 (3年目)	令和3年度 (4年目)	令和4年度 (5年目)
ガレリアドーム広場前横断	5,302	5,341	5,537	3,970	4,344	—

歩道						
トキハ前横断歩道	16,772	16,815	16,885	14,656	15,670	—
野村証券前地下道	1,258	1,506	1,259	985	928	—
大分銀行大分駅前支店前横断歩道	3,164	3,225	2,885	2,925	2,949	—
府内中央口広場北側地下道	765	1,059	1,003	875	1,011	—

〈分析内容〉

中央町・府内町間を往来する歩行者通行量は、令和2年度に比べ1,491人の増加となった。

調査地点「トキハ前横断歩道」では15,670人で、令和2年度に比べて1,014人の増加、「ガレリアドーム広場前横断歩道」では4,344人で、令和2年度に比べて374人の増加、「大分銀行大分駅前支店前横断歩道」では2,949人で24人の増加、「府内中央口広場北側地下道」では1,011人で令和2年度に比べて136人の増加となった。「野村証券前地下道」では928人で、令和2年度に比べ57人の減少となったが、微減にとどまった。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴って、不要不急の外出を控える動向は未だ続いていると考えられるものの、感染者数が落ち着いた9月～12月頃には後述する「大分市中央通り歩行者天国」といったイベントが開催されたことが人流の増加につながったと分析される。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 旧大分フォーラスビル建替事業（大分中央ビル株、横萬ビル株）

事業実施期間	平成29年度～令和元年度【済】
事業概要	ビルの老朽化や耐震改修に伴い、旧大分フォーラスビルの建替えを実施し、令和元年6月に「大分オーパ」として開業。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 当事業における歩行者通行量の増加 7,700人 ・最新値（積算根拠による推計値） 令和3年度における歩行者通行量の増加 7,151人 <p>平成29年3月末に解体工事を終了し、平成30年4月より、立替え工事に着工した後、令和元年6月に地上4階テナント47店の商業施設ビル「大分オーパ」として開業した。</p> <p>事業は予定通り完了しているものの、歩行者通行量の増加には至っておらず、回遊性を生み出しているとは言い難い。</p>
事業の今後について	事業完了。今後も商店街や他の大型店、まちづくり関係者等との連携を継続する。

②. 大分市中央通り歩行者天国（大分市中央通り歩行者天国推進委員会）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	本市のメインストリートである中央通りを歩行者天国とし、魅力あるイベント等を展開することにより、回遊性の向上や滞留時間の延長を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成28年～30年度） 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年～4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 歩行者通行量の増加 2,574人（内数） ・最新値（積算根拠による推計値） 令和3年度の歩行者通行量の増加 1,287人（内数） <p>令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、全日程が中止となっていたが、令和3年度は、感染症対策を講じながら感染拡大が落ち着いていた10月と12月に2回実施した。</p> <p>感染症対策を講じながらの実施となったため、歩行者通行量も事業目標値には至らなかったものの、人流の増加には寄与することができた。</p>
事業の今後について	従来の感染症対策を講じながら、各商店街団体と連携し、開催時間やイベントコンテンツの工夫をすることによって街全体に回遊する取組を進める。

③. 大分市中心市街地祝祭広場整備事業（大分市）

事業実施期間	平成29年度～令和元年度【済】
事業概要	大分駅北側に位置する旧大分パルコ跡地を「祝祭の広場」として整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（大分市中心市街地地区））（国土交通省）（平成30年～令和元年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 歩行者通行量の増加 2,574人（内数） ・最新値（積算根拠による推計値） 令和3年度の歩行者通行量の増加 1,287人（内数） <p>令和元年9月に事業は完了した。広場前の調査地点である「大分銀行大分駅前支店前横断歩道」では、令和2年度に比べ歩行者通行量が増加したことから、広場で実施したイベント等により、まちなか全体への回遊性を生んでいるものと考えられる。</p>
事業の今後について	「大分市中心市街地祝祭広場利活用推進事業」により、利用促進のためのさらなる取組を進めていく。

④. 空き店舗率解消による商店街の魅力向上による効果

小規模事業者競争力強化支援事業（大分市）【再掲】

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	小規模事業者の地道な販路開拓や業務効率化の取組、販路開拓と業務効率化を一体的に行う取組に要する経費を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 商店街の魅力向上による歩行者通行量の増加 5,215 人（内数） ・最新値（積算根拠による推計値） 令和 3 年度における歩行者通行量の増加 4,172 人（内数） <p>令和 3 年度は令和 2 年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症による経済的な影響を鑑み、予算や補助率等を拡充して実施した。</p> <p>その結果、465 件（うち計画エリア内は 128 件）の交付決定をし、個店が販促 PR や店舗改装などの販路開拓につながる取組を行ったことにより、個店の魅力向上と競争力強化が図られ、閉店抑止につながった。令和 3 年度の空き店舗率も 9.0% と改善したものの、回遊性の向上に伴う歩行者通行量の増加までには至らなかったと考えられる。</p>
事業の今後について	引き続き、事業に取り組み、年間平均 3 件の空き店舗の抑制を見込んで、商店街の魅力向上につなげていく。

まちなか出店支援事業（大分市）【再掲】

事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地で事業意欲のある事業者や起業家に対して、商店街等と連携を図りながら空き店舗への出店に関わる経費の一部を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（平成 30 年度～）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 商店街の魅力向上による歩行者通行量の増加 5,215 人（内数） ・最新値（積算根拠による推計値） 令和 3 年度における歩行者通行量の増加 4,172 人（内数） <p>令和 3 年度の新規出店数は 14 件と令和 2 年度の 2 倍に増え、令和 3 年度の空き店舗率の改善に大きな成果をあげたものの、回遊性の向上に伴う歩行者通行量の増加までには至らなかったと考えられる。</p>
事業の今後について	開店後のフォローアップ実施など、制度の拡充を行い、引き続き空き店舗への出店を促進し、商店街の魅力向上につなげていく。

まちなかりノベーション居住等物件魅力アップ事業（株）大分まちなか倶楽部【再掲】

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	空き店舗増加の状況打開に向けたまちなかの店舗等の物件の魅力アップと、まちなか居住人口の増加に向け、老朽化した物件のリノベーションを推進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 商店街の魅力向上による歩行者通行量の増加 5,215人（内数） ・最新値（積算根拠による推計値） 令和2年度における歩行者通行量の増加 3,129人（内数） <p>平成30年度に、（株）大分まちなか倶楽部、地元商業者、不動産業者等で組織する「中心市街地エリアマネジメント研究会」を設立し、定例学習会や先進地視察などを実施している。</p> <p>令和3年度の「中心市街地エリアマネジメント研究会」は、対面での実施と、新型コロナウイルスの感染拡大が続いていた時期には学習資料を共有するという2つの手法を用い、定例学習会を実施した。</p> <p>中心市街地エリアマネジメント研究会による調査・研究は進んでいるものの、既存ストックのリノベーションは実現できていないことが要因の一つとなり、当事業における空き店舗の改善には至っていない。その結果、歩行者通行量の目標達成にも繋がらなかったと考えられる。</p>
事業の今後について	外部より専門家を招聘し、エリアマネジメント研究会での検討内容を深堀しながら引き続き事業を継続する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

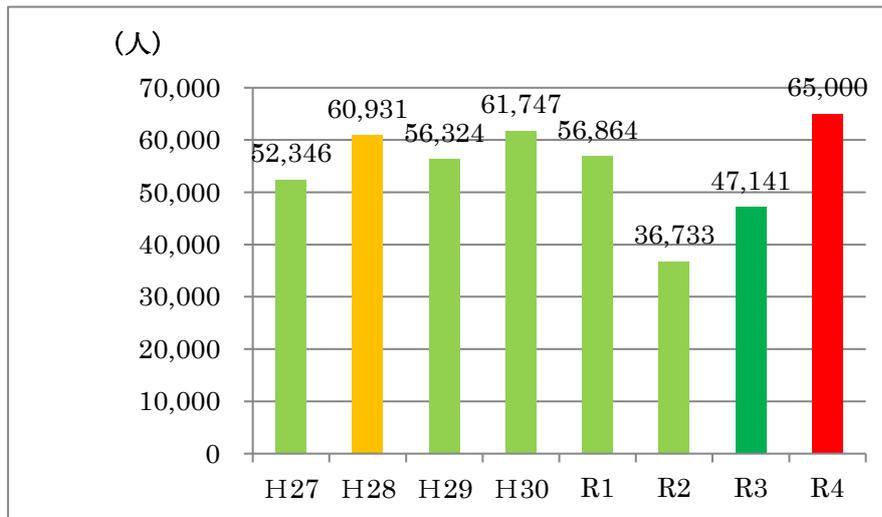
中央町・府内町間を往来する歩行者通行量は、基準値には及ばなかったが、令和2年度に比べ1,491人の増加となったことに加え、今後はこれまでの知見を生かした感染症対策を講じた上で、可能な限り従来の形式でのイベント・行事等を実施することから関連する事業などの進捗状況も順調であり、目標達成が可能であると見込まれる。

今後の対策としては、お部屋ラボ 祝祭の広場での社会実験やイベントの開催を行うことで、広場の機能と魅力を高めるとともに、関係団体と連携して事業者への補助制度の周知や、フォローアップに力を入れることで、空き店舗率解消による商店街の魅力向上による来街者の増加を図る。

(3) 「中心市街地循環バス「大分きゃんバス」年間利用者数」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 72～P. 74 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H28	60,931 人 (基準年値)
H29	56,324 人
H30	61,747 人
R1	56,864 人
R2	36,733 人
R3	47,141 人
R4	65,000 人 (目標値)

※調査方法： 月ごとの利用者数を集計

※調査月： 4月～翌3月

※調査主体： 大分市

※調査対象： 中心市街地循環バス「大分きゃんバス」

月	利用者数	月	利用者数
4月	3,363 人	10月	4,593 人
5月	3,247 人	11月	4,536 人
6月	3,993 人	12月	3,902 人
7月	5,592 人	1月	3,267 人
8月	4,661 人	2月	2,943 人
9月	3,417 人	3月	3,627 人
計		47,141 人	

〈分析内容〉

令和3年度の中心市街地循環バス「大分きゃんバス」の年間利用者数は、令和2年度に比べ10,408人増加した。特に4月の利用者数は2,387人で、対令和2年度比において224.35%、5月の利用者数は3,175人で、対令和2年度比において193.74%となった。本市にまん延防止等重点措置が適用された2月を除く全ての月で、利用者数は令和2年度の数値を上回った。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って不要不急の外出自粛を控える動向は未だ続いていると考えられるものの、中心市街地循環バス「大分きゃんバス」年間利用者数の増加に向けた各事業は予定通り進捗・完了しているため、今後もまちなかの施設や商店街等との連携を強化し、利用者の増加に取り組む。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中心市街地循環バス運行事業（大分市）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	大分駅からまちなかを通り、市美術館や大分県立美術館、商店街などを経由する循環バス「大分きゃんバス」を運行する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成30年度～）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 当事業における利用者数の増加 3,292人 ・最新値（積算根拠による推計値） 令和3年度の利用者数の増加 2,509人 <p>平成27年6月から実証運行を始め、運行便数やルートを見直しながら、平成29年10月から本格運行に移行し、平成30年3月に車両デザインを変更するとともに、車両のバリアフリー化を行った。</p> <p>令和3年度は、令和4年度からの運行ルートの変更に向けて検討を行った。利用者数は47,141人となり、感染拡大前の数には届かなかったものの、令和2年度に比べて増加した。</p>
事業の今後について	美術館来館時にチケット提示で割引適用するなど、美術館等との連携を継続する。また、まちなかの変遷に合わせたルート変更の検討を行うことで、利用者数の増加に取り組む。

②. 旧大分フォーラスビル建替事業（大分中央ビル(株)、横萬ビル(株)）

事業実施期間	平成29年度～令和元年度【済】
事業概要	ビルの老朽化や耐震改修に伴い、旧大分フォーラスビルの建替えを実施し、令和元年年6月に「大分オーパ」として開業。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 当事業における利用者数の増加 472人 ・最新値（積算根拠による推計値） 令和3年度の利用者数の増加 436人 <p>平成29年3月末に解体工事を終了し、平成30年4月より、立替え工事に着工した後、令和元年6月に地上4階テナント47店の商業施設ビル「大分オーパ」として開業した。</p> <p>事業は予定通り完了しているものの、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って不要不急の外出自粛を控える動向利用者数の増加には至っていない。</p>
事業の今後について	事業完了。今後も商店街や他の大型店、まちづくり関係者等との連携を継続する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

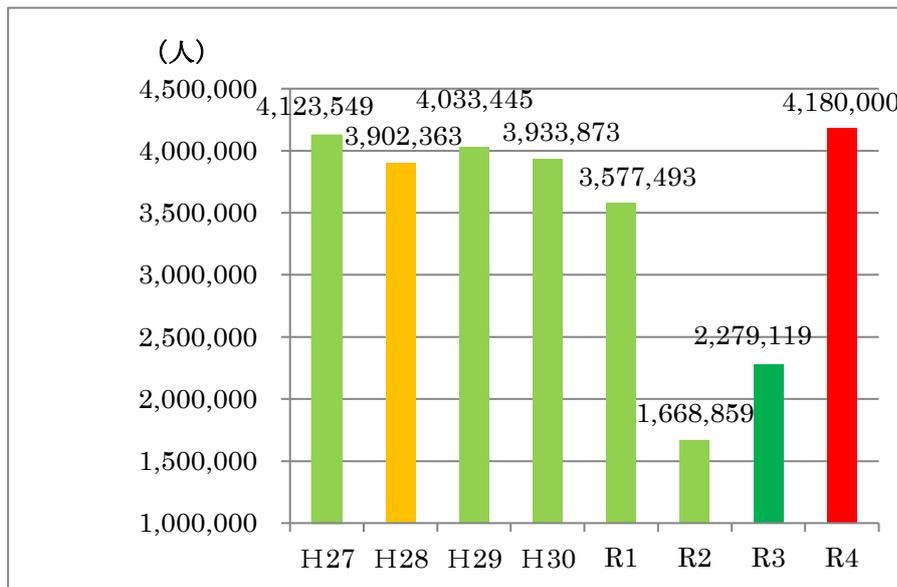
令和3年度は、令和2年度の数值より改善し、バスの運行事業は順調に行われ、新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着いた4月頃や7月頃、10月～12月頃には、利用者数が増加しており、人々の外出機会も増大したと考えられるとともに、令和4年度においてもバスの運行ルートの拡大などが行われることから、関連する事業等の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

今後は、まちなかの施設や商店街等との連携強化に加え、イベントとの連携も行うなどの工夫を施すことで利用者の増加に取り組む。

(4) 「主要文化交流施設年間利用者数」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 75～P. 78 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H28	3,902,363 人 (基準年値)
H29	4,033,445 人
H30	3,933,873 人
R1	3,577,493 人
R2	1,668,859 人
R3	2,279,119 人
R4	4,180,000 人 (目標値)

※調査方法：施設ごとの利用者数を集計

※調査月：毎年4月～翌3月

※調査主体：大分市

※調査対象：J:COM ホルトホール大分、コンパルホール、アートプラザ、
大分県立美術館、大分市美術館

〈分析内容〉

令和3年度の「主要文化交流施設年間利用者数」については、2,279,119人で、施設別の数値としては、J:COM ホルトホール大分は1,039,101人で、コンパルホールは422,751人、アートプラザは78,624人で、大分県立美術館は431,357人、大分市美術館は307,286人となり、令和2年度と比べ610,260人の増加となった。

新型コロナウイルス感染症の感染が再拡大した2月を除き、すべての施設において令和2年度より利用者数が増加しており、新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着いていた4月頃や7月頃、10月～12月頃には、来場者数の増加が特に顕著であった。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

1) 県外からの交流人口の増加

①. 国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭（第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭大分市実行委員会）

事業実施期間	平成30年度【済】
事業概要	大分県民総参加のお祭りとして誰もが参加できる大会の実現、また、今後の大分の文化芸術のさらなる発展につながる大会を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 当事業における県外からの交流人口の増加 96,317人（内数） ・最新値（積算根拠による推計値） 令和3年度における県外からの交流人口の増加 85,953人（内数） <p>平成30年10月から11月までの51日間にわたって開催され、県下で実施された開・閉会式や県・市町村実行委員会等による164事業、関連事業110事業に237万人以上が参加した。そのうち中心市街地では88事業が開催され、120万人以上が来場し、賑わいが創出された。本市や本市実行委員会の主催により調査対象文化交流施設において開催した13事業には、約2万6千人を超える来場者が集まり、施設の認知及び利用者増に寄与した。</p> <p>事業は予定通り完了しているものの、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が長期化する中、県境を越えた移動を控える動向が見られたことが影響し、目標達成には至らなかった。</p>
事業の今後について	事業は完了した。

②. 大分市中央通り歩行者天国（大分市中央通り歩行者天国推進委員会）【再掲】

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	本市のメインストリートである中央通りを歩行者天国とし、魅力あるイベント等を展開することにより、回遊性の向上や滞留時間の延長を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成28年～30年度） 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年～4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 当事業における県外からの交流人口の増加 96,317人（内数） ・最新値（積算根拠による推計値） 令和3年度における県外からの交流人口の増加 85,953人（内数） <p>令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、全日</p>

	<p>程が中止となっていたが、令和3年度は、感染症対策を講じながら、感染拡大が落ち着いていた10月と12月に2回実施した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、県をまたぐ移動の自粛が続いたため、県外からの交流人口の増加には繋がらなかったが、人流の増加には寄与することができた。</p>
事業の今後について	<p>従来の感染症対策を講じながら、各商店街団体と連携し、開催時間やイベントコンテンツの工夫をすることによって街全体に回遊する取組を進める。</p>

③. おおいたワールドフェスタ（大分市）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	<p>国際関係団体や留学生による国際交流プログラムを実施し、中心市街地の賑わい創出を図るとともに、世界の文化や習慣に触れる機会を提供する。</p>
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 当事業における県外からの交流人口の増加 96,317人（内数） ・最新値（積算根拠による推計値） 令和3年度における県外からの交流人口の増加 85,953人（内数） <p>令和2年度はオンラインでの開催となったが、令和3年度は10月に、感染症対策を講じながら対面での実施をした。新型コロナウイルス感染症の影響の長期化により、県をまたぐ移動の自粛が続いたため、県外からの交流人口の増加には繋がらなかったものの、来場者数は1,867人であり、人流の増加に寄与した。</p>
事業の今後について	<p>継続して実施し、中心市街地の賑わいを創出するとともに、来街者の再来訪を促す。</p>

④. OITAサイクルフェスティバル開催事業（OITAサイクルフェス実行委員会、大分市）

事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	<p>大分いこいの道周辺道路や大分スポーツ公園周辺道路を活用した国際自転車競技連合（UCI）公認の自転車競技大会を開催する</p>
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年～4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 当事業における県外からの交流人口の増加 96,317人（内数） ・最新値（積算根拠による推計値） 令和3年度における県外からの交流人口の増加 85,953人（内数） <p>大分いこいの道広場において、「OITAサイクルフェ</p>

	<p>ス!!!2021」として、その周辺道路を活用した自転車レースを開催した。</p> <p>令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、コース沿道での観戦自粛をお願いするとともに、新型コロナウイルス感染症の影響の長期化により、県をまたぐ移動の自粛が続いたため、選手や大会関係者以外の県外からの交流人口の増加には繋がらなかったが、感染症対策を講じた上で「お部屋ラボ 祝祭の広場」にてライブビューイングを実施するとともに、ケーブルテレビや YouTube にてライブ中継を実施した。</p>
事業の今後について	継続して実施し、中心市街地の賑わいを創出するとともに、来街者の再来訪を促す。

⑤. まちなかアートフルロード推進事業（大分市）

事業実施期間	平成 26 年度～令和 2 年度【済】
事業概要	中心市街地から市美術館までのエリアにおけるアート作品を楽しむ機会を提供し、回遊性を創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 当事業における県外からの交流人口の増加 96,317 人（内数） ・最新値（積算根拠による推計値） 令和 3 年度における県外からの交流人口の増加 85,953 人（内数） <p>令和 2 年度に当事業は完了したが、新型コロナウイルス感染症の影響の長期化により、県をまたぐ移動の自粛が続いたため、県外からの交流人口の増加には繋がらなかった。</p>
事業の今後について	事業は完了した。

⑥. 国際スポーツ誘致推進事業（大分市）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	ラグビーワールドカップ 2019 日本大会及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、外国人観光客受入環境の整備、参加国・地域等のキャンプの誘致を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 当事業における県外からの交流人口の増加 27,379 人（内数） ・最新値（積算根拠による推計値） 令和 3 年度における県外からの交流人口の増加 23,676 人（内数） <p>令和 3 年度は延期となった東京 2020 オリンピック・パラリン</p>

	ピック競技大会の聖火リレーや聖火フェスティバル、各国の事前キャンプを行った。新型コロナウイルス感染症の影響により、県をまたぐ移動の自粛が続いたため、県外からの交流人口の増加には大きくは繋がらなかったが、選手や大会関係者は来訪した。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、外国人の受入が未だ見込めないことから、「国際スポーツ誘致推進事業」の今後については未定。

⑦. 大分市中心市街地祝祭広場整備事業（大分市）【再掲】

事業実施期間	平成29年度～令和元年度【済】
事業概要	大分駅北側に位置する旧大分パルコ跡地を「祝祭の広場」として整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（大分市中心市街地地区））（国土交通省）（平成30年～令和元年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 当事業における県外からの交流人口の増加 27,379人（内数） ・最新値（積算根拠による推計値） 令和3年度における県外からの交流人口の増加 23,676人（内数） <p>令和元年9月に事業は完了した。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、県境を越えた移動を控える動向が見られたことが影響し、目標達成には至らなかったが、広場前の調査地点である「大分銀行大分駅前支店前横断歩道」では、令和2年度に比べ、微増であるものの歩行者通行量が増加したことから、広場で実施したイベント等により、ある程度のまちなか全体への回遊性を生んでいるものと考えられる。</p>
事業の今後について	「大分市中心市街地祝祭広場利活用推進事業」により、利用促進のためのさらなる取組を進めていく。

⑧. 大分市MICE開催促進事業（大分市）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	市内で開催されるMICE主催者に対して、予算の範囲内で補助金を交付することなどにより、MICEの開催を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 当事業における県外からの交流人口の増加 40,000人 ・最新値（積算根拠による推計値） 令和3年度における県外からの交流人口の増加 2,000人 <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、県境を越えた移動を控える動向が見られるものの、令和3年度の交付決定は4件で、</p>

	462人の宿泊につながった。
事業の今後について	令和4年度は、7件が交付申請する予定であり、本市への交流人口の増加が見込まれる。

2) 県内市外からの交流人口の増加

①. 自治体情報発信拠点づくり促進事業（大分市）

事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	希望する県内自治体の方が中心市街地において特産品や農林水産物の販売、観光・イベント等のPRができる自治体情報発信拠点の設置等を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 当事業における県内市外からの交流人口の増加 48,000人（内数） ・最新値（積算根拠による推計値） 令和3年度における県内市外からの交流人口の増加 9,600人（内数） <p>令和3年度は2自治体が一時設置し、常設した自治体はなかった。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、特産品や農林水産物の販売、観光・イベント等のPRの実施回数が減少し、情報発信拠点への年間来訪者数は733名となった。</p>
事業の今後について	引き続き、県内自治体に情報発信拠点の設置等を呼びかけ、交流人口の増加を図り、交流施設の利用者増につなげる。

②. 大分市中心市街地プロモーション事業（大分市）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	中心市街地のPR映像や各種メディア等により、その魅力を市内外問わず、より広域に発信することで中心市街地におけるイベント等の実施を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 当事業における県内市外からの交流人口の増加 48,000人（内数） ・最新値（積算根拠による推計値） 令和3年度における県内市外からの交流人口の増加 9,600人（内数） <p>令和3年度はイベント時の自治体PRブース設置やFMラジオでのイベント告知（合計12回）などを行って、他の自治体にイベント等の実施を促進することができ、交流人口の増加にも寄与した。</p>
事業の今後について	引き続き、各種メディア等により、その魅力を市内外問わず、より広域に発信することで中心市街地におけるイベント等の実施を促進する。

③. 広域公共施設相互利用促進事業（大分市）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】 [認定基本計画：平成30年4月～令和5年3月]
事業概要	大分都市広域圏内のスポーツ・文化施設等が相互利用できるよう、新たな公共施設案内・予約システムを導入することにより、市施設の稼働率向上はもとより、交流人口の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 当事業における県内市外からの交流人口の増加 48,000人（内数） ・最新値（積算根拠による推計値） 令和3年度における県内市外からの交流人口の増加 9,600人（内数） <p>平成31年4月にスポーツ（体育）施設の予約を開始し、令和元年9月文化施設の予約を開始した。</p> <p>令和3年度は案内・予約システムの導入に関する相談がある場合に、随時連絡調整を行い、交流人口の増加にも寄与している。</p>
事業の今後について	今後も、スポーツ（体育施設）、文化施設を管理する各市町の関係各課から案内・予約システムの導入に関する相談がある場合、随時連絡調整を行う。

3) 海外などからの交流人口の増加

①. 国際スポーツ誘致推進事業（大分市）【再掲】

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	ラグビーワールドカップ2019日本大会及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、外国人観光客受入環境の整備、参加国・地域等のキャンプの誘致を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 当事業における海外などからの交流人口の増加 7,505人（内数） ・最新値（積算根拠による推計値） 令和3年度における海外などからの交流人口の増加 6,428人（内数） <p>令和3年度は延期となった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の聖火リレーや聖火フェスティバル、各国の事前キャンプを行った。新型コロナウイルス感染症の影響により、県をまたぐ移動の自粛が続いたため、県外からの交流人口の増加には大きくは繋がらなかったが、選手や大会関係者は来訪した。</p>
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、外国人の受入が見込めないことから、「国際スポーツ誘致推進事業」の今後については

	未定。
--	-----

②. 大分市中心市街地祝祭広場整備事業（大分市）【再掲】

事業実施期間	平成29年度～令和元年度【済】
事業概要	大分駅北側に位置する旧大分パルコ跡地を「祝祭の広場」として整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（大分市中心市街地地区））（国土交通省）（平成30年～令和元年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 当事業における海外などからの交流人口の増加 7,505 人（内数） ・最新値（積算根拠による推計値） 令和3年度における海外などからの交流人口の増加 6,428 人（内数） <p>令和元年9月に事業は完了した。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、海外から交流人口が望めなかったことから目標達成には至らなかったものの、広場前の調査地点である「大分銀行大分駅前支店前横断歩道」では、令和2年度に比べ、微増であるが歩行者通行量が増加したことから、広場で実施したイベント等により、ある程度のまちなか全体への回遊性を生んでいるものと考えられる。</p>
事業の今後について	「大分市中心市街地祝祭広場利活用推進事業」により、利用促進のためのさらなる取組を進めていく。

③. O I T A サイクルフェスティバル開催事業（O I T A サイクルフェス実行委員会、大分市）【再掲】

事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	大分いこいの道周辺道路や大分スポーツ公園周辺道路を活用した国際自転車競技連合（UCI）公認の自転車競技大会を開催する
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年～4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 当事業における海外などからの交流人口の増加 7,505 人（内数） ・最新値（積算根拠による推計値） 令和3年度における海外などからの交流人口の増加 6,428 人（内数） <p>大分いこいの道広場において、「O I T A サイクルフェス!!!2021」として、その周辺道路を活用した自転車レースを開催した。</p> <p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、コース沿道での観戦自粛をお願いするとともに、新型コロナウイルス感染症の影響の長期化により、県をまたぐ移動の自粛が続い</p>

	たため、選手や大会関係者以外の県外からの交流人口の増加には繋がらなかったが、感染症対策を講じた上で「お部屋ラボ 祝祭の広場」にてライブビューイングを実施するとともに、ケーブルテレビやYouTubeにてライブ中継を実施した。
事業の今後について	継続して実施し、中心市街地の賑わいを創出するとともに、来街者の再来訪を促す。

④. 大分市無料公衆無線LANサービス事業（大分市）

事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	無料の公衆無線LANサービスを提供し、インターネットが利用できる環境を整備することで、快適な滞在をサポートするとともに、利用者がSNS等で本市の魅力を発信することでさらなる誘客にもつなげる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 当事業における海外などからの交流人口の増加 7,505人（内数） ・最新値（積算根拠による推計値） 令和3年度における海外などからの交流人口の増加 6,428人（内数） <p>中心市街地における利用者の利便性向上のため、令和元年度には祝祭の広場及びその他中心市街地を含む計5拠点の追加整備を行い、サービス提供エリアを拡充した。</p> <p>令和3年度は追加整備を実施しておらず、今後の整備拡充について検討を行った。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、外国人観光客の来訪が困難であったことから、海外からの交流人口の増加にはつながらなかった。</p>
事業の今後について	引き続きインターネットが利用できる環境を整備することで、快適な滞在をサポートするとともに、利用者がSNS等で本市の魅力を発信することでさらなる誘客にもつなげる。

⑤. 大分市中心部一括免税カウンター運営事業（大分市中心部商店街振興組合連合会）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	インバウンドへの消費拡大を促進するため、大分市中心部の商店街振興組合と(株)トキハ本店が協力して「大分市中心部一括免税店カウンター」を設置・運営する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 当事業における海外などからの交流人口の増加 7,505人（内数）

	<ul style="list-style-type: none"> ・最新値（積算根拠による推計値） 令和2年度における海外などからの交流人口の増加 6,428人（内数） <p>新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、外国人観光客の来訪が困難であったことから、令和3年度の利用は3件とわずかであったため、海外からの交流人口の増加にはつながらなかった。</p>
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の影響を見極めながら、引き続き事業を継続する。

⑥. 大分市免税店PR支援事業（大分市）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	スマートフォンなどで免税店が気軽に検索できる免税店PRサイトを運営する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 当事業における海外などからの交流人口の増加 7,505人（内数） ・最新値（積算根拠による推計値） 令和2年度における海外などからの交流人口の増加 6,428人（内数） <p>令和3年度の閲覧者数は753人で、令和2年度の760人からほとんど変化がなかった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、外国人観光客の来訪が困難であったことが、サイトの閲覧者数停滞の要因とみられ、海外からの交流人口の増加にはつながらなかった。</p>
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の影響を見極めながら、引き続き事業を継続する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和3年度は、令和2年度の数值より改善し、感染者数が落ち着いた4月頃や7月頃、10月～12月頃には、利用者数が増加して人々の外出機会も増大したと考えられるとともに、令和4年度においても引き続き各事業が実施されることから、関連する事業等の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

今後は従来のイベントに加え、「アートを活かしたまちづくり事業」において、3年に1度のアートフェスティバルを中心部商店街と連携して開催することで交流人口を増やすとともに、「大分市中心市街地プロモーション事業」により、中心市街地の魅力を効果的に発信することで、来街者の増加と、継続的な賑わいを創出していく。